

服育による気づきが広げる子どもたちの世界

～学校で、家庭で、服育に取り組むために～

株式会社チクマ 服育net研究所 主任研究員 有吉 直美

1. 服育とは

「服育」と聞いて皆さんどのようなイメージを持たれるのでしょうか？

同じく「育」のつく取り組みで広く認知されている「食育」のイメージから、服について何か学ぶのであろうと想像される方が多いでしょう。ただ、「食」については食材の選び方、調理の仕方、食事のとり方等々によって子どもたちの健康な成長に大きな影響を与えることは明白で、食育を行うことの重要性は多くの人々によって認識されています。

しかし衣服についてはどうでしょう？ 衣も「衣食住」という私達人間の生活を支える三本柱のひとつでありながら、食ほどの重要性はあまり認識されていないように感じます。

実際、約10年前に学校制服を扱う私達が「服育」ということばを創造し提唱した当時、すでに大きな取り組みとして広がっていた食育に対して、衣服についての同様の盛り上がりは見られませんでした。

しかしだからといって、人々の衣服への関心が低いわけではありません。高校生にもなれば、「おしゃれな服が着たい」「流行の服を買いたい」「かわいく（かっこよく）見られる服が欲しい」という興味関心が出てくる子も多いでしょう。

もちろん衣服を着る上で「おしゃれ」はとても大切な要素であり、これがあるからこそ衣服は楽しいものなのですが、私達が衣服を着用する目的はそれだけではないはずです。

私達が衣服（布）を身にまとうようになったそもそもの目的である暑さ寒さや外的から身を「守る」という目的、社会が形成される中で自分の立場や身分を相手に「伝える」目的など、まず衣服には大きく分けて「個人のための目的」と、「社会の中での目的」という二つの目的があります。

社会の中での衣服のあり方をグローバルな視点で見れば、外国の人々の暮らしや価値観を理解するこ

とにつながり、ひいては日本人としての衣服のあり方を考えることで、日本人としてのアイデンティティ確立にもつながっていくかもしれません。

また衣服という誰にとっても日常であるものを通して、地球上に生きる私達全てにとっての大きな課題である環境問題について、「日常」と「非日常」の接点を見つけ取り組むこともできるでしょう。

私達の生活を取り巻くさまざまな事柄に関わる衣服ですから、服育としての取り組みも一通りではありません。世代によって、性別によって、地域によって興味のある服育はさまざまだと思いますし、またそのあり方は多様であるべきだとも思います。

本稿では特にこれからの未来を担う子ども達への服育として、家庭科授業や家庭内で衣服について考える際のヒントになる取り組みをご紹介しますと思います。

2. 家庭科で服育に取り組む

教育現場において衣服について学ぶ主な場はやはり家庭科です。しかしながら、限られた授業時数の中で、教えなければならない内容は増え続け、衣服分野にける比重が少なくなってしまいがちだという声をよく聞きます。また、衣服分野を取り扱う時も、なかなか深く掘り下げることができず、教科書を読んで終わってしまうという声を聞いたこともありました。

限られた時間の中で、生徒達の衣服に関する意識を深め実生活へいかすためには、やはり生徒達自身が能動的に自分達の衣生活と重ねあわせて考え、実感することが欠かせないでしょう。子どもたちにとって着ていることが当たり前の衣服は、その当たり前という意識を崩し、衣服について考えるべきことはたくさんあると「気づく」ことがまず必要なのではないかと思います。

私どもでは自分で考え、実感するための服育学びツールを、多くの先生方と連携しながら開発してき

ました。その中から家庭科授業の中で使えるものとして、衣服のTPOについて考えるワークシートと、制服の一生から衣服の環境負荷を考えるすごろくについて紹介します。

(1) 衣服のTPOについて考える「服育着こなしワークシート」

成長していくにつれ、子ども達の社会は広がっていきます。社会が広がり、人とのつき合いが増えていくと重要になってくるのが、他者とのコミュニケーションです。コミュニケーションには、大きく言葉による「パーバルコミュニケーション（言語コミュニケーション）」と、容姿や見た目の印象等による「ノンパーバルコミュニケーション（非言語コミュニケーション）」の二つがあります。

衣服はノンパーバルコミュニケーションの一つであり、着ているだけで自分についての情報を伝える重要な役割を担っています。この衣服のコミュニケーション力について理解し、TPOに応じた表現力を身につけることは、社会生活を送る上で大切な力になってきます。

しかし、TPOの内容は当たり前と言えば当たり前のことばかりです。だからこそ一方的に教えられるだけでなく、自分で考え、表現し、その気づきを学びにつなげることが重要であり、今回ご紹介する

【服育着こなしワークシート】

「服育着こなしワークシート」は面白い取り組みになるのではと考えています。

これはお茶の水女子大学の内藤章江先生（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）が開発されたもので、私どもは調査協力等で開発のお手伝いをさせていただきました。

ワークシート説明書の冒頭、内藤先生は「衣服を自分自身で意識的に購入・選択・着装できる中学生や高校生の男女を利用者としており、衣服を通じて周囲に対する礼儀や思いやりの気持ちを育み、公共マナーや社会性を身につけ、個性と無秩序を履き違えることなく普遍性のある『着こなし』ができるようになることを期待して作成しました。衣服を通じて人を育てる『服育』教育や家庭科における衣生活分野の学習、服装に関わる生徒指導のお役にたつことができれば幸いです」と目的を述べておられます。

さて具体的なワークシートの内容ですが、制服と一般的な衣服の二つの内容で構成されており、二つあわせて50分授業の中で活用することも、どちらか一方だけHR等で活用することもできるようになっています。

「制服」を用いたワークでは、まず男女4人の制服着用イラストを客観的に観察して、○×の評価をしてから、自分の制服の着用状態について自己評価



します。次にワークシートを友達と交換し、互いの制服の着用状態について評価させるのですが、すでにワークシートをご活用いただいた先生からも、この部分が期待以上に盛り上がったという声を多数いただきました。

生徒達にとって、制服の着方についてはいつも先生や親といった大人達から一方的に言われるばかりで、同世代である友達の客観的意見を改めて聞く場がなかったのかもしれませんが。同じ意識を持っていると思っていた同年代の友達から、思ってもみなかった意見をもし言われたとしたら、それは大人達からどんなに厳しく言われるよりも大きな衝撃であるに違いありません。

友達からの意見を聞いた後は、中高大学生の衣服に関する意識調査の内容を確認し、まとめるという流れになっています。

短時間ですが、友達と話し合ったことを振り返り、自分自身の服装について見つめ直すことは、制服の着こなし方について、これまでよりも深く考えることができるでしょう。

二つ目の一般的な衣服を用いた学習の中では、フォーマルスタイルからカジュアルスタイルまでのさまざまな衣服が、①フォーマルで落ち着いた場面、②フォーマルで華やかな場面、③カジュアルな場面1、④カジュアルな場面2、という四つのTPOのどの場面に相応しいか考える学習です。

なんとなくわかったつもりでいるTPOと衣服との関係も、実際に衣服のイラストを仕分けていく中で、「どのような色がいいのか」「肌の露出によってどう変わるのか」など具体的な部分について確認することができます。またその衣服が他の人に対してどのようなイメージを伝えているのかについても、具体的なキーワードをあげまとめてありますので分かりやすくイメージすることができます。

実際の社会の中では、シチュエーションや相手の年代によって、より細やかにTPOを判断する必要があります。その判断する力の基礎力をつけるためにも、まずは基本となる着こなし方や衣服の選び方についての知識をきちんと持つということが社会に出た時に役立つ大切な力になってきます。

(2) 衣服と環境について考える「制服の一生すごろく」

近年家庭科の中で取り上げなければならなくなった重要な内容として「環境」があります。しかし一

言に「環境」と言っても、エネルギー問題からごみ問題、大気・水質汚染に砂漠化、温暖化とその内容は多岐に渡ります。グローバルに深刻化する地球環境問題を考える上で重要なのは、その問題をどれだけ身近なこととして感じ、自分の生活との接点を見つけ出すことができるかではないでしょうか。

誰もが毎日着用しお手入れもする衣服は、グローバルな問題をローカル、さらにはパーソナルに考える上で非常に有効なツールに成り得ます。

「衣服と環境」について学ぶため、まずは衣服がどのように環境問題と関連しているか知る必要がありますが、そのつながりについて学ぶためのツールとしてご紹介しているのが、衣服の一生(ライフサイクル)を学ぶことのできる「制服の一生すごろく」です。

中高生の子ども達が毎日着用し最も身近である衣服「制服」の一生をとりあげ、制服がどのようにして作られ、着用され、リサイクル・廃棄されるのか環境の視点をもって人生ゲームの要領で学ぶすごろくです。すごろくというゲームの中で楽しく学ぶことができるので、生徒達は皆楽しく取り組むことができますし、服の一生を辿るので普段気にすることのない衣服をつくる段階と着用しなくなった後の様子についても学ぶことができます。

遊び方としてはすごろくの要領ですが、一般的なすごろくと大きく違うのは、とまったマス目に記された数字を足していき、一番合計数が多くなってしまった人が負けという点です。

実は各マス目にある数は単なる点数ではなく、二酸化炭素の排出量をイメージした数になっています。つまり衣服を作る段階(羊毛や石油などの原材料～紡績～縫製～輸送)、着用段階、そしてリサイクル・廃棄段階のどのライフステージでも、地球温暖化の原因ではとされる二酸化炭素は排出されており、衣服と地球温暖化の関わりを見ることができるのです。

また「石油を原料とした繊維がある→資源問題」、
「廃棄される衣服がある→ゴミ問題」など、すごろくの流れの中で衣服がさまざまな環境問題と関わりがあることも見えてきます。

特にリサイクルやリユースについてはその大切さを感じてもらうために、リサイクルもリユースもされず廃棄され早々とゴールした人は、ゴールカーボンとしてペナルティのようなカーボンが追加され、

【家庭科の授業ですごくに取り組む中学生】



環境負荷の高い衣服人生だったとすることになっています。

カーボンの色を「つくるエリア」「着るエリア」「捨てた後エリア」で分けており、その積算の様子を見ると「つくるエリア」の環境負荷が一番高くなることが分かります。これは実際の服の一生の環境負荷の割合を反映したものです。

生徒自身が最も大きく関わることのできるのは「着るエリア」ですが、衣服を通じて環境のためになるようなこと（とれたボタンを自分でつける、夏場クールビズで過ごす等）をすると、ゴール後に5カーボン返却できるエコチケットをもらうことができ、自分達に何ができるのか（何をすべきなのか）学ぶことができるようになっています。

もちろんすぐろくをしたからといって、すぐに全員の意識が変わるわけではありませんが、環境のことを少しでも身近に感じることができれば、それがその子の環境行動への一歩となるのではないのでしょうか。

3. 親子で考える服育

衣服は生活のほとんどの時間で着用していますが、実際に着用する衣服を選び、着替え、お手入れし、購入の判断やリサイクル・廃棄の判断等を行う主な場は、家庭になります。したがって、家庭において親と子どもが衣服についてどのような認識を共有するのは、服育を深める上で非常に大切になってきます。

おしゃれ、経済性、利便性といったところに大きな関心が集まっているのが現状ではありますが、その中にひとつ入れていただきたいのが「安全性」という観点です。

子どもたちを「守る」ことは、何よりも優先されるべき課題であるにも関わらず、衣服について安全性の観点から語られることはあまりにも少ないように感じます。

また「安全」という観点から衣服を考えると、それは単なる被服教育ではなく、保育分野とも関連してくる重要なテーマになります。

私どもでは、PTAの方々や消費生活問題の専門家の方々と「安全」をテーマにアンケート調査やモニター調査を行ってきましたので、この章ではその内容について紹介します。

(1) 子ども服の安全に関する調査より

私どもでは子ども服の「安全・安心」について考えるプロジェクトに取り組んでおり、特に園や学校という学びの場で、子どもたちが安全に安心して過ごすことのできる制服の素材やデザインの検討を行っています。

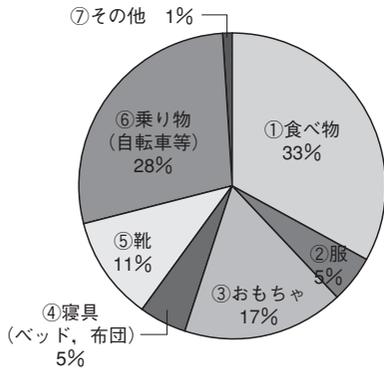
その取り組みの中で、着用する子どもたちに近いところからもっと意見を頂戴したいと、実際に現在子育て中でもある消費生活問題の専門家（消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会西日本支部）の方にご協力いただき、子ども服と安全に関する調査やデザイン検討を行いました。

その取り組みの一つが幼稚園・保育園から高校まで子どもを持つ保護者を対象とした、「子ども服の安全に関する調査」です。衣服と安全性に関する意識調査とともに、現状どのような危険が日常生活の中にあるのか調べるために、学校生活における「ヒヤリ・ハット事例」の収集を行いました（回答数138／性別：男0名、女128名、無回答10名）。

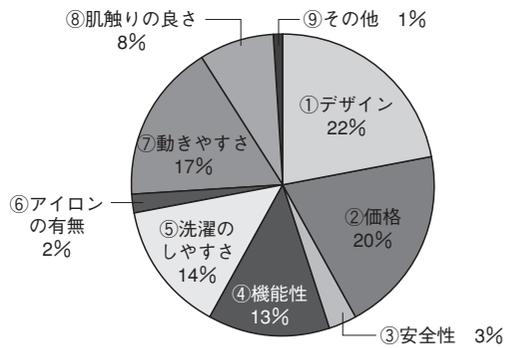
まず子どもに関する購入物の中で「安全面を意識するか」について聞いた項目では、一番安全面について意識するのは「食べ物」、続いて「乗り物」「おもちゃ」「履物」となっており、「衣服」については「寝具（ベッド、布団）」とともに最も意識が低いことが分かりました。

また衣服を選ぶ際の基準について聞いた項目でも、①デザイン、②価格、③動きやすさ、④洗濯のしやすさ、⑤機能性、⑥肌触りの良さ、そしてやと⑦安全性という順位でした。

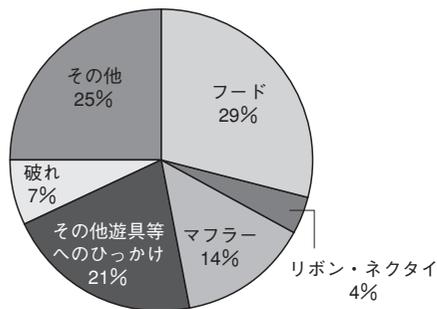
この二つの結果から、衣服を選ぶ際「安全」という基準があることすら知らない（意識しない）という層が、かなりのボリュームで存在することが分かります。



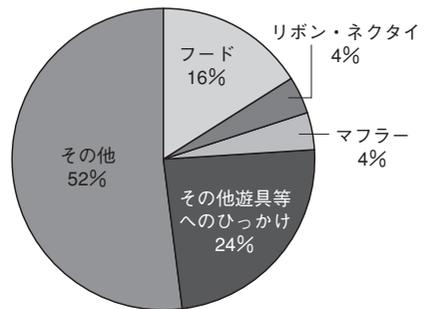
子どもに関するものを購入する際の安全面に対する意識



子どもの衣服を選ぶ時の基準



学校生活における「衣服」のヒヤリ・ハット事例について (幼児)



学校生活における「衣服」のヒヤリ・ハット事例について (小学生)

子ども服の安全に関する調査結果報告2015 / 株式会社チクマ 安全・安心プロジェクト

では実際の子どもの衣生活の現状はどうかというと、生活全般の中での「ヒヤリ・ハット事例」について聞いたところ、幼児から高校生ままで一番多いのは交通事故に関するヒヤリ・ハットでした。特に幼児では「飛び出し」、学年が上がるにつれ自転車に乗車中の事故に関する報告が増えてきているのが特徴です。

次にこの「ヒヤリ・ハット事例」を衣服に限った内容で調査したところ、幼児と小学生については圧倒的に「フード」に関する事例が多くあがってきました。「フードが遊具にひっかかった」「友達にフードをひっぱられ、首に痛みがはした」「フードの紐が首にひっかかった」等々、一歩間違えば重大事故になる可能性のあるものばかりです。

フードについては私服の幼稚園・保育園では禁止するところが多いようですが、それ以外の場面では

危険性を意識することなく着用させているのが現実のようです。

また子ども服の安全性については、JIS4129（よいふく）として子ども服の安全基準が平成27年12月に制定公示されました。子ども服の、特に「ひも」について安全基準を示したこの法制化についても、「知らない」「聞いたことはあるが内容はよく知らない」をあわせると9割以上となっており、内容について知っているのは1割にも満たないということが分かりました。

欧米では、服の附属物をはさまったり、ひっかかったりしたことによる死亡事故まで起きていることもあって、早くから法制化されていますが、日本においては、衣服と安全性についての報道も少なく、意識が低いことが分かります。また、今回の法制化については、まずは服についている「ひも」につい

【放課後も高視認性ベストを着用する小学生】



てとなっており、「ひも」以外でひっかかり事故の多い「パーカー」については、参考事項として記載されるにとどまりました。

子どもに「かわいいものを着せたい」と思う気持ちは分かります。ただ、それは子どもの「安全」よりも上回るものなのでしょうか？

子どもを育てる中で何が大切なのか、衣服を選ぶ際に、「安全」にも考慮する必要があるという意識を、若い世代には持って欲しいと願っています。

(2) 高視認性ベストについてのモニター調査

前項で紹介した調査の「子どもに関するヒヤリ・ハット事例」として最も多くあげられたのは、交通事故に関するものでしたが、実はこの点についてもPTAの方々と協力し調査を行いました。交通事故対策として視認性を高めた衣服（視認性の高い黄色のベスト、反射材付）を着用してもらい、それによる効果について調べたモニター調査です。

このモニター調査にご協力いただいたのは、北海道の千歳市立向陽台小学校（全校児童164名）です。全校児童全員に視認性の高い黄色のベスト（反射材付）を無償配布し、約二ヵ月間着用していただいた後、児童、保護者、先生の三者にアンケートをとりました。

視認性の高い衣服を着用することで、保護者からは「遠くからでも視認しやすくなった」「児童がいるということ意識しやすくなった」という声が多くあがりました。さらに、「子ども達の安全性を高めるために高視認性ベストを着用した方がよいと思われませんか？」という問いに対しては、9割以上の保護者が「着用した方がよい」と答えています。

また、視認性が上がる以外に多く出てきた感想として、子どもからは「ベストを着用することによって交通安全に気を付けようという気持ちになった」

という声が6割以上の子どもたちからあがり、保護者からも「親が交通安全について意識するようになった」とあげられていました。

実際の見え方としての安全性の向上だけでなく、衣服によって安全意識まで向上したのです。これはやはり肌の上に身につける、誰にとっても身近な衣服だからこそその効果ではないでしょうか。また、その衣服を着用する時に「安全」についての親子の会話があったからかもしれません。

いずれにせよ、衣服の着用は私達の意識にまで大きく影響する可能性のあるものなのです。

4. 服育が育む思いやりの心

服育は決して堅苦しい取り組みではありません。当たり前前に購入し着用している衣服について、ほんの少しだけ立ち止まって多様な視点から考えてみることです。

「衣服で人とコミュニケーションすることができる」「衣服も環境問題につながっている」「子ども達を衣服で守ることができる」といったことに気づいた子ども達は、きっとその後自分達の衣生活の中で試行錯誤しながら、彼らなりの服育をつくりあげていってくれるのではないかと思います。

服育を進める上で一番怖いのは、衣服に関心がなく衣服を大切にするという気持ちの持てない子ども達が増えることです。

衣服について考え、大切にすることを思う「思いやりの心」も育まれるのではないのでしょうか。

そのような気持ちを、一人でも多くの子どもたちの心に育むことができるよう、今後も服育のさらなる充実を目指していきたいと考えています。

ご紹介した服育学びツール等へのお問い合わせは服育HPよりお願いいたします。

<http://www.fukuiku.net/>